

## 在籍校での支援のご紹介

みらいに通う生徒は、在籍校へのソフトランディングを目的として、毎週金曜日は在籍校に登校します。生徒たちに在籍校の感想や印象を聞くと、多くの生徒が「みんな優しい!」「金曜日が楽しみ!」「在籍校の先生やクラスの友だちには感謝しかない。」など、笑顔で話してくれます。それだけ在籍校で温かく受け入れられていると感じます。本号では、そんなみらいの通級生徒が在籍する中学校の先生方の素晴らしい支援の一部をご紹介します。



### ～在籍校の初日～

左の写真は、みらいの生徒が初めて在籍クラスの教室に入ったときに、黒板に描かれていた本人の似顔絵です。

不安と緊張でいっぱいだった生徒は、驚くと同時に温かな雰囲気を感じ、とても安心することができました。他にも、みらいの生徒の自己紹介を温かい拍手と笑顔で迎えてくれる教室ばかりです。

### ～身体測定・各種検査・保健室の利用～

年度初めに身体測定等は終わっているのですが、みらいの生徒のために身体測定や視力・聴力検査を行っていただいています。コロナ禍のため、母国で身体測定や検査を長い期間していなかった生徒も多いです。検査のおかげで視力の低下に気づくことができ、みらい通級中に眼科受診をして眼鏡を作ることができた生徒もいます。

みらい東のある豊岡中では、体調を崩した生徒をいつも匹田先生が優しく診てくださっています。ありがとうございます!



### ～学校探検・校長先生の励まし～

多くの学校では、在籍校登校時に学校探検を行ってくださっています。生徒たちは、母国の学校とはずいぶん違う学校の施設に驚くと共に、期待感も高まるようです。特別教室に英語やポルトガル語で部屋の名前が表示されている学校も多いです。また、職員室に入って先生に紹介をしていただいたり、校長室で校長先生に自己紹介をさせていただいたりすることもあります。



### ～持ち物の貸し出し・書道体験～

来日したばかりで教科の用具がそろっていないみらいの生徒に、習字セットや裁縫道具、デザインセットなど、貸し出しをしてくれる学校が多いです。左の写真は、豊岡中学校で、金曜日の国際教室の授業で競書会の体験をしたみらいの生徒です。来年は自分の教室で、できますね♪



～Mission possible～

みらいの生徒は、金曜日の登校時に友だちや先生方に関わってもらうことで可能な「Mission possible」という課題を持っていきます。例えば、「教科担当者の名前を知る／国際の先生にインタビューをする／図書室の本を借りる／教科学習に必要な用具やワークを聞く」など、学校生活適応に必要な情報を得るためのテーマや、学習した日本語を使い運用力を高めるためのテーマを準備しています。

写真は、東部中学校の国際教室の河邊先生の「mission」の授業の様子です。来日間もない生徒たちは、日本人の名前になじみがなく、なかなか覚えることができません。東部中学校では教科担当の先生の顔写真を準備し、名前のディクテーションをさせて教えてくださっています。そのおかげで、東部中の生徒たちは教科担当の先生の名前をよく覚えていて、親しみを感じている様子です。



～生徒の作文より～

「日本人のクラスメイトとは話せないけど、みんなはぼくに握手をしてくれます。もっと勉強して日本語で話せるようになりたいです。」

namu diri-sa japan nabag-uban ko, nirobt diri kay walay trapik. Sa Toyo ganahan sad ko ditto kay buotan akong mga classmates makig handshake sil naku, diri sa mirai ganahan nakug balik ang math ug English. igka Seniorhighsc naku ganahan naku pag-aralan ang parti sa mga sakyanan. daghang Salamat

今回紹介したのは、生徒たちが受けている支援のごくごく一部です。来日直後の生徒たちは、不安いっぱいですが、在籍校の先生方・クラスメイトたちの温かい励ましによって、来日を肯定的に捉えることができ、前向きにがんばろうと気持ちに変化していくように思います。今後もよろしく願いいたします。

高橋ビッキー相談員のブラジル紹介



『在日ブラジル人児童のための教材』より

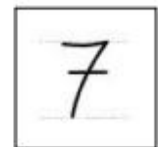
今回は、ブラジルの「算数」と日本の「算数」についてご紹介します。

ブラジルと日本とでは数字の書き方から計算の仕方も違います。ですから、来日した子どもたちは数字の書き方から覚え直し、さくらんぼ式の計算や九九などを学びます。

👉 ブラジルでは以下のような数字を書く子どもも見られます。



「7」は次のように👉書く子どもも見られます。



**たし算・ひき算** 日本の算数では10の固まりを意識して繰り上がりや繰り下がりを考えますが、例えば、 $8+4$ を計算するとき、8から4本の指を使って9, 10, 11, 12と数え、答えの12を導く児童が見られることもあります。

**かけ算(九九)** 1から9の段までを学び、かける数は0から10まで行います。また、日本のように特殊な唱え方は存在しません。

**わり算** 日本で習う筆算とやり方が異なります。

**Step 1**  $168 \div 2$ を筆算の形にする。

1	6	8		2
---	---	---	--	---

**Step 2**  $2 \times 8 = 16$ を記入する。

1	6	8		2
				8
1	6			8

**Step 3**  $16 - 16 = 0$ 、8をおろして、 $2 \times 4 = 8$ を記入する。  
 $8 - 8 = 0$ で終了。

1	6	8		2
1	6			8
0	0	8		
				8
				0

算数は数字を使うので、学習方法は世界中で同じだと思われることが多いです。でも、ブラジルと日本だけでもこのような違いがあります。もし、子どもたちが算数の学習にとまどっていたら、子どもの母国の算数の学習方法を調べてみると、その理由が分かるかもしれません。「東京外国語大学多言語多文化共生センター」には指導の参考となる情報がたくさんありますよっ(^\_-)-☆